

# 杉並区立西田小学校 令和4年度第7回 学校運営協議会記録

- ・日時 令和4年11月28日（月） 午後4時15分から午後5時40分
- ・場所 図書室
- ・出席者 諏訪会長、鈴木校長、恵羅、渡邊、目黒、中澤、望月、山内、半澤、檜枝（記録）  
【事務局】神近副校長（司会）、佐々木
- ・資料 資料1 令和4年度第7回学校運営協議会次第  
資料2 西田小学校の7年間の歩みと世界・日本の教育改革の潮流  
資料3 令和5年度教育課程編成の重点  
資料4 学習eポータル「まなびポケット」保護者連絡機能実証希望校の募集について  
(通知)  
資料5 学力に関する報告資料  
資料6 すぎなみ教育シンポジウム2022チラシ

## 1 会長挨拶

- ・80周年記念行事はいよいよ今週の土曜日に行われる。
- ・西田小学校の7年間の歩みと世界・日本の教育改革の潮流（資料2）について説明した。  
\*西田小では2018年の第3回ESD子供報告会、2019年度の「NISHITA未来の学校」などに代表されるように、先進的な取り組みが行われてきている。今後もさらに取り組みを進めてほしい。  
\*近年の世界の教育改革の潮流はOECDが牽引し、SDGsも影響してきている。改革は、学習者中心の学びへ、コンピテンシー育成へ、そしてこれから社会的Well-beingの実現を目指している。OECDが提示するラーニング・コンパス2030で最も大切なことは「変革をもたらすコンピテンシー」である。  
\*日本の新学習指導要領の方向性も、世界の潮流と類似している。  
\*総理府の教育・人材育成WGの提案は画期的。例えば、「教師による一斉授業」から「子ども主体の学び」へ、「同一学年で」から「学年に関係なく」へ、「教科ごと」から「教科等横断・探究・STEAM」へなどを提言している。  
\*STEAM教育の本当の狙いは教科の枠を超えること。  
\*日本財団「2019年9カ国 18歳意識調査」によれば、日本の18歳は「自分で国や社会を変えられると思う」「自分を大人だと思う」が極端に低くなっている。これは若者に対する大人のふるまいの結果と受け止めるべきであろう。
- ・次の意見が出た。  
\*学問が分かれているから、教育が教科に分かれているのはその方が効率が良いからではないか。それを乗り越えて新しい体系を作るには時間がかかるであろう。  
\*心身ともに良いは当然のように思うが、とらわれると悪い面が出てくる。

\*日本財団の調査結果は、国や地域に対する若者の帰属意識の欠如が大きな要因であろう。将来に悲観しているというよりも、国や地域のために何かすると若者は考えていないからであろう。

## 2 校長挨拶

- ・80周年記念行事に関して、子どもたちは頑張っている。期待して欲しい。
- ・11月23日に行われた西田の丘フェスに参加した。楽しい会であった。竹あかりも立派であった。
- ・フェアトレードに関して児童がいろいろ考えて提案してくるので、前向きに検討してくれると良い。
- ・済美教育センターから令和5年度教育課程編成の重点（資料3）が来た。来年度の教育課程は次の二つの視点で編成することになった。視点1 子どもの思いを尊重する、視点2 ちがいを認め誰もが共に生きる。
- ・学習eポータル「まなびポケット」保護者連絡機能実証希望校の募集について（資料4）を紹介した。まなびポケットに応募することにした。

## 3 学力調査結果

- ・佐々木先生から資料5「学力に関する報告資料」の説明があった。
  - \*学力に関して、各教科ともよく学習が定着している傾向がみられた。
  - \*ESDに関して、児童にその考え方や価値観が定着してきている。
  - \*競争心や肯定感の低さ、学習過程での改善や試行錯誤の苦手さがうかがえる。
  - \*教師や大人とのかかわりの希薄さが感じられる。
  - \*ICTに関して、引き続き教員のスキルアップとより有効な活用を図る。
  - \*成績中央値以下の層の引き上げを狙った学習支援をニシタスと連携して始めた。

## 4 その他

- ・12月開催予定の松溪中との合同CSについて協議し以下の意見が出た。
  - \*この件に関して、前回のCSで大方の了解は得ている。
  - \*11/14開催の松溪中CSでは、12月19日（月）4時から松溪中多目的ホールで開催する了解を得た。
  - \*小中連携は制度的な整備が無いと本格的に進めるのは難しいであろう。
  - \*地方では少子化が進み、児童数を確保するための小学校の統廃合や小中校の合併をせざるを得ない状況がある。
  - \*総理府の教育・人材育成WGは学年にもっと自由度を持たせることを提案している。発達段階に応じて633制を444制に組みなおす考えもある。しかし、小学校は学級担任制、中学校は教科担任制と制度が違うので、本格的に進めるためには例えば教員免許制を義務教育免許制に変える等の制度の変更が必要であろう。

- \*小中に区切りがあると、子ども自身が成長の区切りを意識するのに役立っているという良い面もある。
- \*小中で一緒に議論するテーマがあると議論が深まる。例えば、「あそび市」のように楽しいイベントと一緒に活動する、お互いの校舎に入る機会を作る、部活のおためしなど。
- \*小中連携がないと何か悪い影響が出るのかの視点で考えることも必要で、なくても大した影響がないのであれば止めても良いはず。
- \*中1ギャップがあるので連携は必要であろう。松渓中はほとんどが西田小と桃二小から進学してくるので、このメリットを生かせないか。
- \*小中間の教員の異動が効果があると言われているが、教員免許制度が障害になっている。

#### 事務連絡

##### 12月学校運営協議会開催予定

12月19日（月）午後4時00分～午後5時30分

会場は松渓中学校多目的ホール。

以上